

【令和2年度 授業改善推進プラン】

板橋区立高島第三小学校

【国語】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none">・朝のほっとタイムや図書の時間などは、自分で本を選び読書に親しんでいる児童が多い。・発表をしたり、考えを聞いたりすることで、必要なことを落とさずに聞く力は身に付いていると考えられる。・考えを発表することに意欲的な児童が多い。また、分かりやすく相手に伝えることについては、多くの児童が身に付けているが、苦手とする児童もいる。・物語文の読み取りについては、登場人物の心情を読み取ることには不十分な児童もいる。・経験したことを伝える文章を書くことについては、多くの児童が身に付けて書いている。詳しく書いたり、表記を間違えずに正しく書いたりすることが不十分な児童もいる。・漢字については、読み取り書き取り、共に不十分な児童がいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・漢字については、読み先行ではなく、書き取り中心の学習が行われている。・グループ活動や、交流の時間が少なかった。話したり、聞いたりして意見を交流しながら深めていくことが難しかった。・登場人物の心情をとらえるために必要な要素を理解し、活用する力を身に付けさせる必要がある。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・ひらがな、カタカナ、漢字の学習では、書き取りだけでなく読みも重点的に行う。学習した漢字を使用した文章を作るなど、活用できるようにしていく。書く機会も増やしていく。・分かりやすく伝える力、聞く力を伸ばすために交流の時間を多く設け、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりする。・読むことについては、普段からの読書の習慣を大切にしていく。また、大切な言葉や叙述に着目して考えるように、必要な要素を理解し、活用する力を身に付ける指導をしていく。

【社会】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none">・授業での振り返りやワークテストの結果から分析すると、基礎的な地図の読み取り、短文での資料の読み取り問題については理解をしている児童が多い。・一方、都道府県の名称と位置、四方位に関する理解が不十分である児童が見られる。また、自分たちの住む板橋区の位置を正
--------	--

	<p>しく理解できていない児童も見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフ、絵図の読み取りや文章のみの問題になると正確に事実を取り出せない児童が多く見られた。特に情報量の多い資料から自分に必要な情報を取り出す問題が苦手であることが分かった。実際の授業においても、情報量の多い資料から自分に必要な内容を選択することに苦手意識をもち、ノートに調べて分かったことを書けない児童も見られる。 ・資料から得た複数の事実を関連させて考えることや意味を問う問題を苦手とする児童も多く見られる。 ・社会科の学習では見学や体験、調べ学習を通して問題を追究する活動を好む児童が多い。一方、資料や教科書からの読み取りを苦手とし、そのことが原因で社会科を好まない児童もいると考えられる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県の名称と位置、板橋区の位置、八方位など社会科における基礎的知識を全児童に定着させる必要がある。 ・児童が主体的に学習問題を考えたり、調べたり、意味について考えたりする授業を実践しようと心がけている教員は多い。今後、児童が受け身にならず主体的に活動できる場面を更に増やしていく必要がある。 ・普段の授業の中でも資料の読み取りをする活動を多く取り入れる必要がある。また、資料等から読み取ったことを、自分なりに言語化し、適切に文章にすることが苦手なため、国語と連携して指導を行うことが必要である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の活用の仕方、都道府県の名称と位置などは、どの学年で指導し定着させるのかを明確にして指導に当たる。また、地図帳を活用する場面を意図的に設定する。八方位や地図記号、都道府県の名称や位置などはどの学年においても繰り返し学習を積み重ね、知識を確かなものにさせる。 ・問題解決的な学習過程「つかむ・しらべる・まとめる」で指導を繰り返していくことで、児童が主体的に学習問題をつかみ、調べ、関係性に気付きながら学習問題の答えを自ら考えていく学習にする。また、児童の思考力・判断力・表現力を高めることを今後も継続して行っていく。その際、児童同士で情報交換や意見交換をする場面を設け、学び合うこともその手だてとする。 ・実際に見学、体験、調査したり、学習の最後に自分の生活との関連について考える活動を設定したりすることで、学んだことが自分の社会生活と結び付いていることや自分の役割があることに気付かせる。見学・体験が制限された場合でも、適宜VTRや資料を効果的に活用していく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料等から読み取ったことを、言語化し、適切に文章にすることに慣れさせる。国語と連携して指導を行う。 ・言語活動の内容・場面・形態などについて計画的に年間指導計画に組み入れ、児童の思考を深める。 ・単元の終末に学んできたことを根拠にして自分の考えを書かせたり、討論をさせたりする活動を取り入れることで、自分の考えを整理し、深めさせる。 ・普段の授業においても文章や資料の読み取り方を学習し、必要な情報を選択し、活用する能力を身に付けさせる。
--	---

【算数】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・単純な計算のやり方は理解しており、解くのもはやい。 ・自分の考えを図や、言葉の式などでノートにかくことができる児童が多い。 ・面積、体積の立式ができて、途中の計算で間違えることが多い。 ・学年に関係なく、九九の間違い（7の段、8の段）が多い。 ・学習した直後はできていたことが、時間がたつと忘れてしまう。または、あいまいな記憶のため、他の解き方と混ざってしまう。（分数のかけ算、わり算の解き方が逆になってしまう等） ・問題文が長いと、読まない。または、書いてあることの意味が分からなくなってしまう。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応を必要とする児童が多い。 ・苦手意識のある児童ほど家庭学習に取り組まないことが多いので、定着が厳しい。 ・問題文を読む力をつけるには、算数の時間だけでは対応しきれない。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を徹底し、児童のつまづきの様子を探る。 ・ワークテスト後に解説、指導をし、テストの直しをさせる。 ・問題文を読み取る練習やわからない言葉を調べる習慣をつけさせる。

【理科】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の理科の学習では、自然観察や飼育、実験をすること
--------	---

	<p>に対して関心をもち、意欲的な児童が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察結果を確認し、科学的な思考・表現する力が、不十分である。 ・自然観察や実験で分かったことを自分の言葉で適切に表現する力が不十分である。 ・自分の考えを言葉や図などに表し、筋道を立てて表現することに対し苦手意識をもつ児童が見られる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を考え、問題解決の見通しをもって、計画を立てる、実行する、見直すなどの問題解決型の授業をより多く行っていく必要がある。 ・既習事項を確実に身に付けさせるための手だてが必要である。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察や実験で分かったことを自分の言葉で適切に表現する力を付けるために予想を立ててから実行し、結果を出す問題解決型の授業を組み立てる。 ・自然観察や実験を行い、性質、規則性、相互の関係などを知識として定着するような授業を組み立てる。 ・既習学習の定着を図るために家庭学習を用いていく。

【生活】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・虫を育てたり、植物を育てたりすることに興味・関心をもって取り組んでいる。観察記録も意欲的に取り組める児童が多いが、文章や絵をかくことに苦手意識をもつ児童もいる。そのような児童に向けては、友達の観察記録を紹介し、どのような視点で書けばよいのか気付かせたり、書けた内容を認めてどのようなところがよかったか褒め、達成感を味わわせたりするようにしている。 ・昔遊びのけん玉や百人一首を楽しんで行っている。友達に教えながら互いに成長している様子が見られる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・観察カードに書かせる際に、国語や算数などの他教科で学習したことと結び付けて文章を書かせたり、植物の生長を測定させたりする必要がある。 ・自分だけではなく、クラスみんなが上手に行えるよう、児童に声をかけていくことが大切である。

<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の施設（公園や図書館など）を見学することによって、地域の環境を活用しているが、教室内だけでも学習できるようなものを考えていく必要がある。 ・様々な活動を行った後の振り返りをしっかり行う。気付いたことや感想を書いたり、発表し合って共有したりすることで表現力を伸ばし、達成感を味わわせるようにする。
-------------------------	--

【音楽】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽への興味・関心が高い児童が多く、意欲的に取り組むことができる。一方で、基礎的な歌唱や器楽の技能が身に付いていない児童もいる。 ・自分の思いや意図をもって表現を深めようとする力が十分でなく、自分の出した音や声がどのような音楽になっているかという意識が希薄である。 ・よりよい音楽にするための児童同士の活動や鑑賞の学習において、手だてとなる音楽的な語彙が不足している。 ・友達の演奏を聴く際の聴き方が身に付いていない児童が多い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士で聴き合う活動や、発表の際の児童が表現した音楽に対しての適切なフィードバックが十分でない。そのため、児童が自分の表現に対しての価値づけができていない場合がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6学年を通して、系統的に知識・技能を身に付けられる指導計画を立てる。 ・毎時間、児童に分かりやすいめあての提示とそれに対する振り返りを行い、児童がめあての達成度を認識できるようにする。また、児童が45分間の中で見通しが持てるように、毎時間、授業の流れを提示する。 ・児童同士で聴き合う活動を多く取り入れ、自分や自分たちが生み出す音や声について関心を高め、聴き方を学ぶ。 ・既習した音楽の言葉を意識的に用いて指導する。また、児童に獲得してほしい音楽用語を提示し、児童が選択してそれらの言葉を使えるようにする。

【図画工作】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道具・材料の基本的な扱い、安全な使用についてはおおむねできる。 ・図工へ興味・関心の高い児童が多く、楽しく活動することができている。 ・友達の作品や活動に興味をもち、学びを深めようとしている児童が多い。 ・作りたいという意欲はあるが、表現の仕方が分からなかったり、イメージを言葉で伝えたりすることが難しい児童がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道具、材料の応用的な扱い、さらなる上達の為に個人の能力に応じた指導が十分行き届いていない。 ・既習事項との関連や、道具の扱いを確認する機会が少ない。 ・イメージと表現する言葉、知識を教える時間が少ない。 ・板橋区として、感染症の対策ガイドラインが各校裁量の域を脱していないため、校内で助言をもらいつつ指導しているが、日々手探りの中、教材研究を深めることや図画工作科の目標達成を目指した指導を行うことが難しい。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあて、ふりかえりを徹底しつつ、道具材料の扱いの上達も視野に入れて指導を行っていく。 ・6年間を通して、系統的に学年に応じた技能が身につくように指導計画を立てる。 ・題材の特徴をとらえつつ、導入や鑑賞の中で、イメージを言葉にする活動や、中学校美術につながるような知識的な側面も含めて指導していく。

【家庭】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科についての興味関心は全体的に高く、各單元において意欲的に取り組むことができる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの関係で調理実習などのグループ活動が難しい。 ・技能面での個人差が大きい。
<p>■授業改善に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンを扱うときなど、児童に同じ向きで座るようにさせ、

向けての具体的な方策	<p>感染予防に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染状況が改善されてきたら、児童同士で学び合ったり保護者に協力をいただいたりして苦手な児童が技能面を伸ばせるようにしていく。
------------	--

【体育】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広い校庭を利用して、休み時間になると、ソーシャルディスタンスを保ちながら、おにごっこや縄跳びをして身体を動かし、元気に遊ぶ児童が多い。全体的に運動を好む児童が多い。 ・今年度は体力テストの実施が行えなかったため、昨年度の結果から見ると、握力、長座体前屈、20m シャトルランが平均を少し下回っている。しかし、合計点は向上している。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・握力、長座体前屈、20m シャトルランに関しては、年間を通して、意識的に体育の授業や、日常の経験において身に付けていくことが必要である。 ・体育が好きな児童は、体力テストにおいても成績が良い傾向にあるので、低学年から、身体を動かす楽しさを味わい、体育が楽しいと思える環境作りが必要である。 ・高学年では、中学校で行う領域を見据えた指導が必要になってくる。陸上競技や球技など、様々なスポーツの競技特性を十分に味わうことのできる指導が必要である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・握力に関しては、鉄棒をしっかり握ってぶら下がる、登り棒に1日1回触れるなどの取り組みを学校生活の中で継続して行う。低学年から高学年の継続指導の中で、その力を養っていく。長座体前屈では、準備運動にストレッチを多く取り入れ、体の柔軟性を高めるようにする。20m シャトルランでは、毎年取り組んでいるマラソン月間を充実させ、授業の最初にランニングを取り入れ、持久力を向上させる。 ・低学年から、身体を動かす楽しさを味わわせるため、広い校庭を利用し、遊びの中で様々な体の動きを経験させ、体育が楽しいという意識を向上させていく。 ・中学校を見据えた指導では、高学年を中心に、中学校で用

	<p>いる競技を取り入れるようにする。ただし、その競技の楽しさや特性を小学生でも味わえるよう、ルールを簡易化するという指導の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の思考・判断を促すため、多様な場の設定やタブレットパソコン、ワークシートを積極的に活用していく。
--	--

【総合的な学習の時間】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科学習や「人」「自然」「社会」に関連付けた単元構成のため、関心意欲が高く、よりよく問題を解決しようとしている。問題解決の過程で、情報を整理したり、分析したりする力が充分ではない。 ・調べ学習には興味関心が高く意欲的だが、得た情報から必要な情報を選び取る力が充分ではない。 ・学習のまとめにおいて、多様な表現方法を活用することが充分ではない。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ方を工夫する資質・能力を身に付け、他教科と関連付けて思考力・判断力・表現力を伸ばす必要がある。 ・集めた資料・情報から、適切に取捨選択して整理・分析する力を伸ばす必要がある。 ・相手意識を高め、多様な表現方法を身に付けていく必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から他教科と関連付けて考える習慣を付け、調べ方の工夫を例示して考えさせる。 ・インターネットだけでなく、書籍やインタビューなど多様な調査方法に取り組みさせる。 ・集めた情報の整理・分析の方法を指導する。 ・今年度は発表の場を設けることが難しいため、受け手や読み手への相手意識を高めたり、伝えたい対象を絞ったりして表現することを指導する。また紙媒体だけでなく、ICT機器を活用し、データで表現する方法を指導する。

【外国語活動】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none">・物の名前、色、数字、曜日など単語を発音することに対して意欲的である。・ALT や友達と英語を通して交流したり、英語を話したり聞いたりすることを楽しんでいる。・元気よく歌やアクティビティに取り組み、外国語に慣れ親しんでいる児童が多い。・インタビューゲームなどでは、語彙や構文を使いながら積極的にALT や友達とコミュニケーションをとっている。・高学年では、英語を書いたり、会話したりすることに苦手意識をもっている。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none">・英語を声に出すことや、ALT との会話を恥ずかしがる児童のために、より積極的に参加できる工夫が必要である。・アクティビティやゲームが楽しくなりすぎて、めあてから外れていく姿が見られる。・全体・グループ・個人への指導上で、単元や学習活動の中で有効的である人数の設定をALT と打ち合わせる必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none">・ねらいを明確にした活動を取り入れ、楽しみながら英語に親しんだり、英語のスキルを身に付けたりできるように、授業展開を工夫する。・より魅力的な学習活動のために、「Hi, friends!」や「We Can!」「Welcome to Tokyo」の有効な活用方法を研究し教具を検討し、指導法の研修を計画的に行う。・慣れ親しんだ語彙や構文を使って表現したり、コミュニケーションを図ったりする場面を、評価規準を基に計画的に指導計画に位置付ける。・ペアやグループの活動をさらに取り入れることで、会話する機会を多くもたせ、表現する楽しさや喜びを味わわせる。・電子黒板やデジタル教材を積極的に活用する。・新学習指導要領の周知・実施に向け、校内研修や指導計画の作成、アクティビティの実践を計画的に行う。

【道徳】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none">・興味をもって、話を聞き、考えを表現する児童が多い。考えを伝える場面では、話を聞くだけで意見を言わない児童がいる。・人の気持ちを考えずにけんかをしてしまうことや、挨拶や学校のきまりを守ることに關しては課題がある。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えが思い付かずに、その時間の価値に迫れない児童がいる。そのため、より題材の世界に入り込ませ、自分の考えを整理する時間を確保する必要がある。・その時間で学んだ価値を自らの生活に結び付けられるように振り返りの時間を大切にすることが必要である。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・児童が話の世界に入り込むためには、話の内容を場面絵やデジタル教科書でいつでも見られるようにすることが大切である。・道徳ノートを活用し、自分の思ったことや気持ちを書き、考えを整理できるようにする。また、友達の考えをノートに記入し、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方を考えられるようにする。・毎授業で、取り扱った内容や自分の考えについて振り返りを行う。今の自分を振り返り、今後どのような自分になりたいか考えさせるようにする。